

中国語教育学会会報

第30号(通巻55号)2010年8月17日発行

〒441-8522
愛知県豊橋市町畑町1-1 愛知大学
荒川清秀研究室内
中国語教育学会
HP <http://www.jacle.org/>
Email ch_teaching@yahoo.co.jp
郵便振替口座 00110-1-191152

=====

目次

- (1) 第8回全国大会開催報告
- (2) 2010年度第1回理事会、総会報告
- (3) 総会以降に開催された研究会報告
- (4) 今後の研究会開催のお知らせ
- (5) 学会誌第9号の原稿募集について
- (6) 2010年度4月以降の新規会員・退会者
- (7) 事務局からのお知らせ
- (8) 中国語教育の動向・紹介

「2010年高等学校外国語担当教員セミナー」「2010年 高等学校韓国語・中国語教師研修」報告

=====

(1) 第8回全国大会開催報告

第8回全国大会は2010年6月5日と6日、2日間にわたって桜美林大学で開催され、計171名の方が参加されました。大会初日の6月5日は総会、シンポジウム・ディスカッション、懇親会が行われました。シンポジウムは前回に引き続き、テーマを教学上の大きな問題の一つである「中国語の持続・進行の表現及びその教え方」とし、スタンフォード大学の孫朝奮教授が“南方方言、北方方言及非完成体的历史发展路径”を題とした基調講演を行いました。講演の後、荒川清秀、王学群、張黎、丸尾誠、楊光俊氏たちにより報告並びにパネルディスカッションが行われました。大会二日目の6月6日は12の分科会で計26名の方が研究発表をしました。なお、シンポジウムの内容については『中国語教育』第9号に掲載予定です。研究発表者並びにテーマについては、ホームページをご覧ください。

今回は2日目の分科会において、司会者が足りず、1人で2つのセクションを担当していただいたりしました。またエントリーに関しては、直前になってキャンセルしたいとか、参加が難しいという申し出が2件あり、大会準備会及び事務局を慌てさせました。エントリーする以上、万難を排して参加していただきたいと思います。一方、今回より大会予稿集を作成できたことは会にとって大きな前進だったと思います。

(2) 2010年度第1回理事会、総会報告

会場：桜美林大学町田キャンパス 日時：2010年6月5日12:00 13:00

理事会出席者：会長：荒川清秀 / 代表理事：郭春貴、佐藤富士雄、平井和之、藤井達也、三宅登之、山崎直樹、山田眞一 / 理事：岩本真理、遠藤雅裕、大川完三郎、加藤晴子、清原文代、鈴木慶夏、陳淑梅、古川裕、丸尾誠、村上公一、守屋宏則、楊光俊、依藤醇 / 幹事：塩山正純、中西千香、森宏子（前年度）
特別出席：齋藤貴志（次年度開催校代表：麗澤大学）
欠席者 理事：日下恒夫、胡士雲、西香織（以上50音順、敬称略）

報告事項

1. 理事・会計監査・幹事の選任と承認

会長から、理事は選挙結果の得票上位の者（10位同数につき11位まで）のほか、年齢、男女比、所属先の地区のバランス等を勘案して選任したとの説明があった。会計監査には植村麻紀子（神田外語大学）、齋藤貴志（麗澤大学）の両氏、幹事には塩山正純（愛知大学）、中西千香（愛知県立大学）の両氏が推薦され、いずれも承認された。

2. 地区研究会担当者

2010年度の各地区研究会については、関東地区は平井和之理事（日本大学）、関西地区は山崎直樹理事（関西大学）、九州地区は西香織理事（北九州市立大学）がそれぞれ担当することになった。

北海道地区については、日本中国語学会との提携が模索されている。

3. 会員動向について

昨年6月以降の新規入会者数は51名、退会者数は26名で、2010年6月3日現在488名で、差引25名増加した。

4. 研究会記録

2009年度12月以降に実施された研究会は、以下のとおりである。

2010年1月9日(土)九州地区研究会 於西南学院大学

中国語基礎づくりのための漢字練習帳の応用について	篠原征子（北九州市立大学・非）
“再”、“又”、“还”と「重音」	黎 明（熊本大学・非）
中国語声調調値の定量化に関する一考察 「ド・ソ」五度声調指導法を中心として	郭 麗 影（熊本大学・非）
「ほめ」に対する応答の指導について	西 香織（北九州市立大学）
中国語における不同意表明の仕方	王 萌（九州大学・院）

議題審議事項

1. 中国語教育学会2009年度会計決算書(2009年4月～2010年3月)

< 収入 >

	予 算	決 算
会費収入	2,000,000	2,130,000
会誌売上	50,000	92,750
寄付		230,000
繰越金	2,881,712	2,881,712
計	4,931,712	5,334,462

< 支出 >

諸会議費	300,000	388,960
事務費	200,000	346,155
郵便費	320,000	262,583
交通費	500,000	470,680
会誌第8号印刷費	300,000	273,000
第7回大会費	400,000	400,000
幹事手当	200,000	200,000
選挙関連費	50,000	61,341
予備費	2,661,712	2,931,743
計	4,931,712	5,334,462

監査の結果、経理内容は適正であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。
2010年4月10日

2009年度会計監査	勝川 裕子 印
2009年度会計監査	中西 千香 印

2. 2010年度予算について、

2009年度12月理事会で決定された基本方針に沿い、上記決算での繰越金確定を含めた2010年度予算について審議し、これを承認した。

2010年度予算案(2010年4月～2011年3月)

< 収入 >		< 支出 >	
会費収入	2,000,000	諸会議費	400,000
会誌売上	50,000	事務費	300,000
繰越金	2,931,743	郵便費	300,000
計	4,981,743	交通費	500,000
		会誌第9号印刷費	300,000
		第8回大会費	400,000
		幹事手当	200,000
		予備費	2,581,743
		計	4,981,743

3. 2011年度全国大会の開催校と日程について

2011年度全国大会の開催校を麗澤大学とすることが承認され、開催校を代表して齋藤貴志会員よりあいさつがあった。

会場：麗澤大学（千葉県柏市） 日程：2011年5月28日(土)、29日(日)

シンポジウム・講演会テーマ：未定

4. 全国大会開催校への人的援助について

会長から、現在、学会事務局からの具体的な援助としては40万円の資金提供があるが、今後の全国大会については小規模校でも開催できるよう、人的な面でのサポート体制をつくり、多くの大学が手を挙げられるようにしたいと提案があり、今後これを設ける方向で継続審議することとした。

5. 会長の再任・重任について

前年度会長の古川理事から、学会規模が大きくなり、事務局負担を軽減するためにも、会長の再任・重任を禁止する規定改正をしたいという提案があり、基本的にはその方向で継続審議することとした。

6. 学会ホームページでの各種情報掲載について

外部よりの公募情報の掲載依頼や各種賞の募集があった場合は、基本的に日本中国語学会の規定に沿うこととするが、掲載情報については一切責任を負わぬ旨を明記し、閲覧利用する会員自身の判断に委ねることとした。また、判断が難しい案件については理事会の審議を経て決定することとした。

参考：中国語学会の公募情報に関する規定

以下の(1)・(4)に、このページの公募情報に対する日本中国語学会の責任範囲が記されています。これらの条項を理解し同意されたかたのみ、このページの公募情報を利用することができます。

1. 日本中国語学会（以下、当会）は、以下の情報を仲介するものであり、斡旋を行うものではありません。
2. 当会は、このページの公募情報およびリンク先の情報に関する問い合わせはいっさい受け付けません。
3. 当会は、このページの公募情報を利用した結果生ずるすべての損害に対し、いっさい責任を負いません。
4. 当会は、リンク先の機関が行う対応について、いっさい責任を負いません。

〔このページへ情報の掲載を希望されるかたへ〕当会の「公募情報」のページに掲載する情報は、大学や研究機関の公募情報に限定します。また、掲載する内容は次の3項に限定します。1)機関名、2)応募期限、3)参照先のウェブサイトのURL。同時に、掲載の条件として、詳細かつ公式な情報を掲載したウェブページ（大学／研究機関のウェブサイト中の公募情報のページ、など）が必要な期間中、存在していることを要求します。また、当会のウェブサイトにもふさわしくないと関係者が判断した依頼は掲載を断ることもあります。

7. 名誉会員の推薦・決定について

岡井禮子会員を名誉会員に選出した。ただし、日本中国語学会では、全国大会開催関係者、会長経験者など学会に貢献があった会員を主にして、なるべく名誉会員を作らないことが方針として決定されて

おり、本会としても、現行規定の、70歳以上で在会期間が5年以上ある会員がほぼ自動的に名誉会員になることについては、見直す方向で継続審議することにした。

8．編集委員会の創設について

『中国語教育』の編集については、現在、会長と幹事が編集委員会的役割を担っているが、その負担を軽減するために、4名から6名による編集委員会を組織することが諮られた。また、査読委員も、現行制度では理事のみで分担しているが、今後は広く会員全体に範囲を拡大することもあわせて諮られた。審議の結果、提案の大筋についてはこれを認め、詳細は12月の理事会で継続審議することとした。

9．日本における中国語教育の現状に関する調査の実施について

荒川会長から、中国語教育をフィールドとする学会として、任期中に「日本における中国語教育の現状に関する調査」を実施することについて諮られた。審議の結果、学会内で調査グループを組織し、科研など外部資金を獲得できた場合に実施するという方向性について確認した。費用等の問題も含めて具体的な実施計画については12月の理事会で継続して審議することとした。

10．名簿の発行と関連するデータについて

今年度中に名簿を発行する予定であるが、発行形態、情報の公開範囲、フォーマット等の詳細については12月の理事会の審議を経て決定し、年度内発行に間に合わせることを確認した。

11．バックナンバーの管理・保存について

塩山幹事から、現在、学会誌『中国語教育』が8号まで刊行され、バックナンバーが段ボール7箱分にまで増えており、今後バックナンバーの保存冊数を減らし管理の簡素化をはかる方向で検討することが諮られた。この問題については、提案された方向で、12月の理事会で改めて審議することとした。

(3) 総会以降に開催された研究会報告

2010年7月24日(土) 関東地区研究会 於日本大学

新しい「学習のめやす」が目指すもの・『高等学校の中国語と韓国朝鮮語：学習のめやす(試行版)』
改訂に向けて・藤井達也(埼玉県立伊奈学園総合高等学校)・植村麻紀子(神田外語大学)
初級テキストの文法項目と配列について 島田亜実(日本大学・非)
中国語の数量補語教育に関する一考察 目的語との語順を巡って 平山邦彦(拓殖大学)

(4) 今後の研究会開催と発表希望者募集のお知らせ

今年度も関東地区、関西地区、九州地区での研究会発表者を広く募集しています。

研究発表を希望される会員、あるいは講演会などを企画される場合、関東地区は平井和之氏(日本大学)、関西地区は山崎直樹氏(関西大学)、九州地区は西香織氏(北九州市立大学)までご連絡ください。各連絡先アドレスは学会ホームページ「研究会・講演会」ページからリンクされていますので、ご利用ください。現在決まっている研究会は以下のものです。

関東地区研究会(発表希望者は平井和之(日本大学)まで)

2010年10月16日(土) 明治学院大学白金キャンパス

九州地区研究会

2011年1月8日(土)午後 場所：未定

発表希望者は11月17日(水)までに、題目を「中国語教育学会九州地区研究会発表希望」とし、本文に、

1) 氏名、2) 所属・職名、3) 発表題目、4) 発表要旨(200字程度)を書いて、電子メールにて北九州市立大学、西香織(nishik@kitakyu-u.ac.jp)までご連絡ください。

なお、当日、中国語教育学会会長荒川清秀氏による記念講演「中国語を歩く 中国の街を歩きながら日中の漢字の意味・機能の違いを考える」を行う予定です。

第3回東北大学中国語教育研究会

日時：2010年9月25日(土)14:00～

場所：東北大学 中国文学準備室(参加人数によっては変更の可能性あり)

題目：(決定済みのもの)中国語の無気音・有気音の発音教授法について 緒方哲也(東北大学・非)どなたでも参加できます。

他にも研究発表者を募集しています(東北大学関係者に限りません)。発表希望者は、題目を9月21日(火)までに研究会責任者の緒方哲也(notung@mail.tains.tohoku.ac.jp)までご連絡ください。

(5) 学会誌第9号の原稿募集について

『中国語教育』第9号は来春2011年3月末に刊行予定です。研究論文の投稿を広く募集します。応募資格は、投稿時点における本会会員に限ります。

研究論文は日本語、英語、中国語によるものとし、400字詰め原稿用紙換算で50枚(2万字)以内、内容は中国語教育に関係するオリジナルな研究論文、中国語教育現場での実践報告、調査報告や書評などとします。投稿原稿はそれぞれ査読委員複数名の査読によって採否を決定します。「投稿規程」及び「執筆要領」は、本学会ホームページ「投稿規程」に最新版を掲載していますので、必ずこの規程に従って原稿を提出して下さい。投稿原稿の宛先は教育学会事務局、受付の締め切りは、郵送消印、宅配便受領印の日付が2010年12月3日(金)以前(12月3日を含む)であることとします。

(6) 2010年度 4月以降 新規会員・退会者(7月末現在)

新規会員(敬称略)入会手続順

保坂律子(駒沢女子大学)、許穂(ミスキン・インターコム)、田園(桜美林大学(非))、温琳(麗澤大学)、植屋高史(中央大学(非))、中田聡美(大阪大学(院))、長谷川清(文教大学)、齊藤遥(早稲田大学(院))、中元雅昭(日本大学通信教育部(非))、張金平(愛知県立大学)、筒井紀美(立教大学)、蘇雪蓮(愛知淑徳大学(院))、楊蕾(京都外国語大学(院))、森崎梨絵(吉林財経大学)、劉志偉(同志社女子大学(非))、喜多田久仁彦(京都外国語大学)、石井康一(甲南大学)、若森幸子(文教学院大学(非))、王慧琴(慶応義塾大学(非))、崎原麗霞(鳥取大学)、王欣(島根大学(特別嘱託講師))、熊楠梓(立命館大学)、艾玉霞(富山県立大学(非))

退会者(敬称略)

孫玄齡、大川博昭、李伝英

(7) 事務局からのお知らせ

・年会費の徴収について

現時点までにすでに多数の会員から会費を納入頂きました。ご協力ありがとうございます。まだ納入がお済みでない場合でも、随時受付けておりますので、前回会報に同封の振替用紙に必要事項をご記入の上、2010年度の年会費5,000円をお振り込みください。なお、事務局が移転しても郵便振替番号はそのまま継続されますので、ご安心ください。滞納分がある方につきましては、できるだけ一括納入ください。できない場合は通信欄にその理由をご記入ください。請求金額が合計15,000円以上の場合は会則にしたがい除籍となります。

・住所・勤務先などの変更届について

郵便物が住所不明で事務局に戻ってくる場合があります。住所や勤務先などの変更が生じた場合には、学会事務局まで電子メールにてご連絡ください。なお、事務処理上の煩雑さを避けるため、振込用紙への記入や郵便、ファクスなどでのご連絡はご遠慮ください。

・情報提供のお願い

中国語の教育・研究にかかわる研究会・講演会やスピーチコンテストなどの催しがある時は、ぜひとも事務局にご一報ください。学会ホームページ (<http://www.jacle.org/>) において広く通知します。

・12月の理事会のお知らせ

場所：愛知大学東京事務所（霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート西館37階霞ヶ関）

日時：12月18日(土)1:00～4:00

(8)【中国語教育の動向・紹介】

「2010年高等学校外国語担当教員セミナー」「2010年 高等学校韓国語・中国語教師研修」

山崎直樹（関西大学）

昨年に引き続き今年も、「高等学校外国語担当教員セミナー」(8/5, 6)と「高等学校韓国語・中国語教師研修」(8/7, 8, 9)が開催された。主催は、長らく高等学校の韓国語・中国語教育を支援しているTJF(国際文化フォーラム)で、この団体は『高等学校の中国語・韓国語 学習のめやす(試行版)』(2007年)を作成したプロジェクトも運営している。

簡単に言えば、後半の「韓国語・中国語教師研修」は、『めやす』に準拠した教材を作れるような力をつけるための実習である。『めやす』をご覧になったかたには、ここから現実のカリキュラムをどうデザインすればよいのか、教材をどう作ればよいのか、そして、学習者をどう評価すればよいのか……を疑問に思われたかたも多いと思う。この研修は、その疑問に答えるための実習であり、また、参加者は前半2日間の「セミナー」を必ず受講しなければならないことになっている。

前半のセミナーは『めやす』のスーパーバイザーでもある當作靖彦先生(カリフォルニア大学サンディエゴ校)による講義が主体である。この講義を通して、受講者は「コミュニケーション能力を育成するための外国語教育」に関して理解を深め、『めやす』の背景にある理念を体得することができる。

後半の研修は高校の韓国語・中国語教育に関係していないと参加できない。しかし、前半のセミナーは広く一般に開放されており、また、前半だけの参加も可能なため、昨年度は、韓国語・中国語以外の外国語を担当する高校教員も多数参加した。今年はさらに、大学の教員も多数参加した。

上で「理解を深め」と書いたが、実は、セミナーはそんな穏やかな講義ではない。なぜなら、受講者から、「聞くことすべて新鮮で衝撃的」「これまでやってきたことをすべてひっくり返さなければならないと思えるようなショックを受けた」という感想が多く寄せられたからである。當作先生の講義のインパクトはそれほどのものなのである。

このセミナー・研修とも、全体を通しての主任講師は當作先生であるが、後半の研修では、中国語班担当講師として、植村麻紀子先生(神田外語大学)、胡玉華先生(関西学院大学)、わたしが加わった。わたしは高校で教えていないが、この研修に関与することができて幸せだと思っている。このセミナー・研修は、来年度も開かれる予定なので、ぜひ多くのかたに参加していただき、この幸せを味わっていただきたいと思う。